

# 鷹取山自然観察会会報

2015.12.13 No.10

## 巣箱の掛け替えと利用状況調査について

—平成27年11月—

### 1. 巣箱掛け

鷹取山の樹林内ではシジュウカラ、ヤマガラ、コゲラ、エナガ、ジョウビタキ、ウソ、ウグイスなどがごく普通に観察されます。シジュウカラ、ヤマガラは巣箱をよく利用してくれる野鳥でもあり、当会では平成25年から野鳥の保護を目的に巣箱掛けを行ってきました。平成25年に8個、平成26年に9個を子ども達とイベントを開催して鷹取山公園にかけてきました。現在17個の巣箱が掛かっています。今年は新たな巣箱を掛けずに今までの巣箱の掃除と利用状況を調べ、再度巣箱掛けを行いました。巣箱を掛ける時期は12月～3月といわれ、出来るだけ早い時期に掛けてしまうのが良いということで今年は昨年が続いて11月に行いました。



11月20日金曜日10時に鷹取山公園に会員6名が集まり行いました。2班に分かれて、一個づつ巣箱の利用状況を確認していきました。利用された巣箱は木から取り外し、中を掃除して、水洗いし再び木に掛けました。巣箱は木を傷めないようシュロ縄で取り付けました。かける場所は地面から2～3メートルの高さで周囲に枝がなくて見通しがよい場所にかかけました。鷹取山公園は横須賀市の公園であり設置の届出を行っています。設置した場所は図のとおりです。北側の巣箱の掛けている木は落葉広葉樹のコナラ4本、イヌシデ1本、ムクノキ1本、エノキ1本で常緑広葉樹のアカガシが1本でした。南側の巣箱は落葉広葉樹のコナラ2本、エノキ2本、ソメイヨシノ1本、オオシマザクラ2本、ケヤキ1本、常緑広葉樹のウラジロガシ1本でした。



### 2-1. 巣箱の状況

巣箱は上蓋が開くように作ってあり、蓋を開け確認しました。巣の材料は巣箱によって

違って、シュロやイネ科の枯草、木の皮、コケが中心の巣もあり様々でした。雑木林の巣箱ではコケを多く使っています。巣箱を利用した野鳥が何であるかは繁殖期に一つづつ給餌状況を確認すれば良いのですが、その調査は行っていません。巣穴は直径3cmにしてあるのでシジュウカラ、スズメ、ヤマガラのいずれかと思われます。



## 2-2. 大きな巣穴は誰が空けたの？

巣箱の一つに大きく広げられたものがありました。計ってみると直径5cmに広げられていました。ここに何が入っていたのがわかりませんが、アオゲラの巣穴の大きさが5cmなのでアオゲラが穴を広げて巣作りをしたのか、またはタイワンリスが巣箱を利用したのかもしれない。



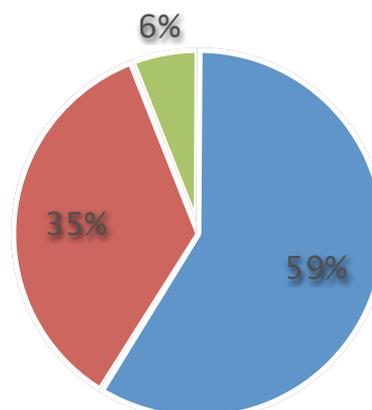
## 3. 利用状況

巣箱の利用状況は地点別に見ると図1の通りでした。鷹取山北側では8個のうち5個（1個は未確認）が、南側では9個のうち5個が利用

されていました。利用率は58.8%でした。今回の調査では巣作りする場所は樹種とあまり関係していないと思われます。鷹取山では人が通る場所の近くでは巣作りしていないようでした。日当たりの良い場所では、南向き、西向きは入りにくいとの情報もありましたが確認できませんでした。巣箱の高さは2~3mに設置してあり高さの違いについては調べていません。

他の地域の巣箱利用状況など調べてみると30~50%程度であり、比較してみると高い利用率だと思われます。私を含めて会員の多くが巣箱の利用率の高さに驚きの反応でした。会では昨年12月から第一金曜日に定期的に野鳥観察を行っていきます。巣箱の利用状況も継続して観察していく予定です。関心のある方は是非参加して下さい。今後シジュウカラ、ヤマガラが利用してくれるか観察したいと思います。

巣箱の利用状況



- 利用した巣箱
- 利用しない巣箱
- 不明

### ◎ シジュウカラ

全長14cm。平地から林、住宅地で四季を通じて見ることも多い鳥です。木の穴に巣を造りますが、人工的な狭い穴にもよく造ります。背中の上部は緑黄色で青灰色なのが特徴的です。喉から尻にかけてネクタイのような帯があり、胸の黒ネクタイが太いのがオス、細いのがメスです。



## モニタリングサイト1000里地調査への応募申請について

鷹取山自然観察会は2013年から植物相調査、野鳥、蝶類調査を会員で行って来ました。この調査は環境省および日本自然保護協会における「モニタリングサイト1000里地調査マニュアル」に準じて行っています。

「モニタリングサイト1000里地調査」の応募は5年ごとに行われていて次の公募は2017年となっているため、以前より日本自然保護協会へ追加応募の要請をしてきました。このたび、日本自然保護協会より追加応募のメール並びに環境省のホームページの掲載があり急ではありますが11月末の期限に合わせて応募要領に従い、申請することとしました。環境省の審査を経て2016年2月決定、4月から

シジュウカラは、関東ではだいたい3月下旬ころから巣作りを始め、5月中旬ごろに巣立っていきます。個体によっては2回目繁殖や3回目繁殖をするものもいて、初夏くらいまではシジュウカラの繁殖がみられることもあります。

(巣箱の掛け替えに参加した人)

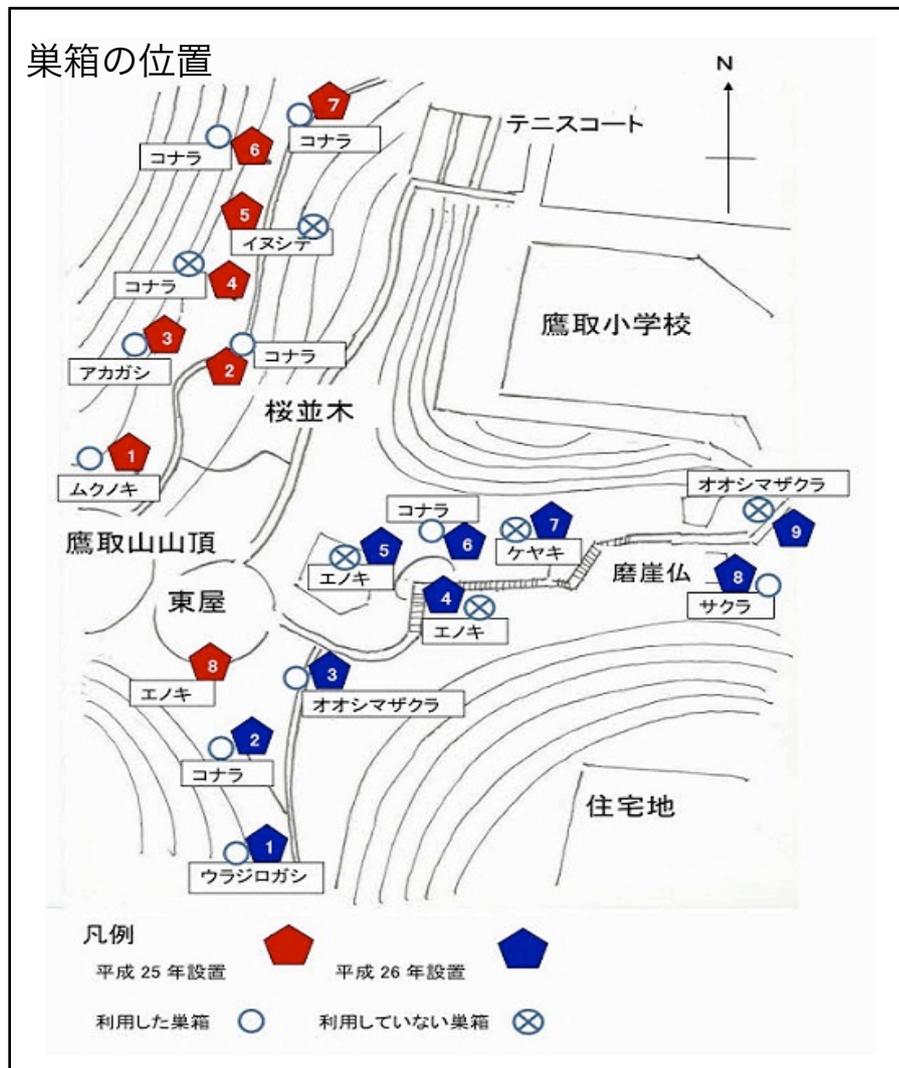
本多久男、中村紀雄、高橋和子、市川 實、竹之下香苗、林 美紗江(順不同、敬称略)

調査の開始となりますが調査内容等についてほとんど変更はないかと思えます。

-----  
\*モニタリングサイト1000里地調査とは

この調査は環境省が所管して日本自然保護協会が運営している調査です。モニタリングサイト1000は全国1000カ所で100年間行うことを目指した長期モニタリング調査プロジェクトです。森林・草原、海岸など様々な生態系分野で調査が進み、日本自然保護協会では里地分野の事務局の運営を2005年から担当しています。

環境省モニタリングサイト1000里地調査は、100年の長期にわたり里やまの変化を早期に把握し、生物多様性の保全施策に役立てるための環境省の事業で行



われています。現在、里地分野では全国191箇所（神奈川県20箇所）で市民の方々のご協力によるボランティアの調査が行われていて、そのうち5年を区切りとして公募する第3期（2013～2017年度）登録の「一般サイト」は現在173ヶ所ありますが、登録途中でサイトの辞退があったため、今回、最大5サイトを目安に第3期一般サイトを追加で募集することになりました。

今回募集する一般サイトの調査は2016年3月から2年間ですが、長期モニタリング調査を行う方針から、できるだけ2018年以降5年もさらに継続できる場所を希望しています。里山の現状を科学的に捉え、保全施策につげるために、ご応募をお待ちしています。（日本自然保護協会HPより）

-----  
当会では今後とも継続的に調査を進めていきたいと思っておりますので、植物、昆虫、鳥などに興味がありましたら、ぜひとも参加していただきたいと思っております。最初はあまり知識がなくても一緒に参加することで徐々に覚えていくと思っております。100年調査することは想像できませんが、新たな仲間を増やして10年、20年と続けていければよいかなと思っております。

（参考）

★ 横須賀市で現在里地調査が行われている地域  
野比地区： 三浦半島昆虫研究会 昆虫  
光の丘水辺公園： 水辺公園友の会 植物相、  
蝶、蛙

## 秋の花3題

**オケラ** *Atractylodes japonica*

（キク科オケラ属）

日当たりのよい明るい草むらにノコンギクや終わりかけのキンミズヒキとともにオケラが咲いている。アザミの花の色を淡くしてほっそりしたような花だ。

“オケラになる”という無一文の語源の一つとして、オケラの根の皮を剥いて使用するため、実（身）の皮を剥かれるという意味や、昆虫のオケラを正面から見るとお手上げのように万歳をしていることなど言われている。

言葉の由来になるくらいだから、花も昆虫



（写真は雌株の雌花）

も一般的だったのだろう。

オケラは昔から白朮（ビャクジュツ）と呼ばれる生薬として有名で、根茎が使用され胃腸を整えたり利尿作用がある。芳香があり、生薬の調剤としても配合され、無病息災を祈念してお屠蘇にも配合される。しかしこのオケラは、オオバナオケラといい漢方薬用に栽培されている。

さて、山にあるオケラは春の新芽は山菜として食され美味だそうだが、秋に花芽をもった時に気付くことが多く、新芽の頃に見つけない。

茎は硬く高さ30～80cmくらいで茎の先に花を1個付ける。葉は3小葉か単葉で棘状の鋸歯があり、下部の葉は柄があり羽状に深裂する。魚の骨状の総芒外片が2列に並び淡紫色の花を包む。

雌雄異株で雌花の花柱は先が二つに分かれる。雄花は先が分かれぬ。花序は長さ3cmほどで総芒外片が茶色のせいか地味な花だが親しみのもてる花である。

**カラスノゴマ** *Corchoro psis tomentosa*

（アオイ科カラスノゴマ属）

どこにもありそうで意外と見つけれぬカラスノゴマは、ヒガンバナが咲き終わる頃、黄色い花を横を向いて下向きに開く。高さ20～40cmでやや濃い緑色の葉の腋から花茎を出してその先に1個の花が咲く。

花は直径2cmほどで雄蕊が目立つ。全体に細かい毛がある。果実は棒状で毛があり緑色から茶色、そしてこげ茶色になり3つに裂ける。



中には茶色の3mmほどの種子がある。あまりゴマには似ていない。

以前はシナノキ科に分類されていたが、APG体系ではアオイ科に分類されている。カラスノゴマ属は日本ではこの種しかない。

カラスノゴマの長く伸びている雄蕊5本は仮雄蕊で、雄蕊は雌蕊を囲むように花の中心から放射状に広がり先が内側に曲がり10本ほどある。ここにはアリがたかっていることがある。

黄色い花なので目立ちそうなのだが葉影に隠れて下向きに咲くせいか、十数本咲いていても華やかな感じがしない。

**キッコウハグマ** *Ainsliaea apiculata*  
(キク科モミジハグマ属)

亀甲白熊と書く。1cm足らずの花なのだが亀と熊という字が入っている。亀甲は葉が亀の甲羅に似ていることからきている。白熊はヤクというウシ科の家畜の白い尾毛を兜や槍、僧侶の持つ払子などに装飾として用いられていた。花の形がその飾りのようだと言われたのだが、オクモミジハグマ、カシワバハグマ、クルマバハグマなど仲間のハグマに比べるとずいぶん小さい。

花は先が5つに分かれてリボンのようになり反り返り、赤いめしべが1個ある。この小花が3つ合体して一つの頭花になる。

キッコウハグマは閉鎖花が多い。蕾を見つけても咲かないこともある。

開花に合わせるタイミングも難しい。もうそろそろと思って見に行くと茶色の冠毛をつけて花が終わっていることもある。



運よくちょうど開花の時期に合ったときはやれやれと思う。苔が生えるようなやや薄暗い土手の斜面などに多く咲く。小さな花なので見つける気で歩かないと見過ごすこともある。  
(小池順子)

《 あなたの秋の七草 》

9月13日の自然観察会では「秋の七草を観察しよう！」をテーマに12人が参加して早い秋を満喫しました。

秋の七草は山上憶良が万葉集で詠んだ以下の2首の歌がその由来とされています。

秋の野に 咲きたる花を 指折り かき数ふれば 七種（ななくさ）の花

萩の花 尾花 葛花 瞿麦（なでしこ）の花 姫部志（をみなへし） また藤袴 朝貌（あさがお）の花

「朝貌の花」が何を指すかについては、朝顔、木槿（むくげ）、桔梗、昼顔など諸説ありますが、桔梗とする説が最も有力です。

春の七種と違い、秋の七草に直接何かをする行事なく、摘んだり食べたりするものでもなく観賞するためのもののようにです。

現在鷹取山はじめ三浦半島でも野生のオミ

ナエシ、フジバカマ、ナデシコ、キキョウを見ることはできません。オミナエシの代わりにはオトコエシ、フジバカマはヒヨドリバナなどが仲間の種になると思います。そこで観察会参加者に「あなたの秋の七草」を聞いてみました。秋を感じる草花として、多い順ではオミナエシ 7人、ハギ 5人、コスモス 5人、キキョウ 4人、ワレモコウ、ナデシコ、キンミズヒキ、ホトトギス、フジバカマ 各3人でした。

## ヤツデの知恵を考える

ヤツデは、鷹取山の日陰の何処にでも見ることができます。あるサイトに庭木から逃げ出して野生化している、と書いてありました。低木の樹形に特徴があり、特に葉の形の特徴が親しまれています。天狗の団扇の形をした葉は、絵本「だるまちゃん と てんぐちゃん」で、だるまちゃんが天狗の団扇の代わり使いますが、ヤツデの葉には天狗の団扇の能力はありません。ところがヤツデには、驚くほどの優れた特徴があります。小学2年生の国語で学習する教材に「タンポポのちえ」というのがありました（今もあるかも知れませんが）。タンポポが知恵を働かせて仲間を増やすことを書いた説明文を学習します。どの生き物も知恵を働かせて生きていますが、ヤツデはタンポポ以上に知恵の働きが顕著です。ヤツデの葉をよく観察して、どんな知恵を働かせているか考えてください。

知恵その1. 森林は、高木、中木、低木に分けられます（これは以前6年生理科で学習しましたが、今は外れています）。低木になるヤツデは、高木や中木の根元の薄暗い日陰に生育していることが多いです。ここは暗いために競争相手があまりいないので、ヤツデは自由に繁殖することができます。最近庭に植えることはありませんが、私の子供の頃は北側の日陰、便所の近くに植えられていることが多くありました（ウジムシ退治に使ったと言うのですが、どのように使ったのか、

私は知りません）。

知恵その2、暗いところでも必要な日光を受けるために、葉を大きくしています。桐の葉も大きいですが、薄いので簡単に破れてしまいます。桐の葉はたくさんあるので、少しぐらいの葉が破れても影響がないでしょう。数の少ないヤツデは、破れることのない様にとっても肉厚になっています。肉厚になれば重くなり支えられなくなるからでしょう、切れ込みが入っていて、軽量化と同時に補強にもなっています。それがヤツデの名前の由来で、手のような形（掌状）をしています。

知恵その3、葉の付き方は、対生、互生、輪生とあり、ヤツデは互生に分類されていますが、実際は螺旋状に付いています。上から見ると上の葉と重ならないように螺旋状になっていることがよくわかります。しかも、下の葉ほど葉柄が長く、上の葉と重ならないように二重に重なりを防いでいます。この知恵によって日陰でも生育できる日光を得ることができるのでしょうか。この丈夫で大きな葉は、長い間枯れることはありません。10年以上保つのではないのでしょうか。これも生育を助けているといえるでしょう。

知恵その4、花は植物毎に特徴がありますが、ヤツデもかなり変わっています。まず競争相手の少ない冬に咲くということ。越冬する昆虫にとって、その蜜は欠かせないでしょう。球形の散形花序を円錐状に多数付ける花



序、その形と色は、薄暗い樹陰でも昆虫に見つけられ易いでしょう。また、雄しべだけの雄性期と、雌しべだけの雌性期があり、受粉を確実にしています。その結果、春にはたくさんの実を付けますが、鳥が食べるのを見ません。私の子供の頃、この実で遊びました。篠竹で作った空気でっぼうの玉にして、撃ち合ったのです。もしかしたら、庭から逃げ出して野生化させたのは、昔の「悪ガキ」だったのかもしれませんが。

ヤツテは、今時の隙間産業の成功者といえるのではないのでしょうか。 (市川 實)

## 平成28年の行事予定

鷹取山自然観察会では自然観察会(8頁)の他に、鷹取山の生き物調査(環境省自然環境局及び日本自然保護協会における「モニタリングサイト1000里地調査マニュアル」の維管束植物相調査、チョウ類調査、野鳥調査に準じて行います)などを行っています。これらの行事は全て自由参加です。興味ある調査に是非ご参加ください。

### 1. 植物相調査

調査は原則として1~12月の第4金曜日に行います。雨天の場合の日曜日に順延、更に水曜日に順延します。集合、調査時間：10時~15時頃(各自昼食用意)、集合場所：鷹取山公園山頂東屋。

### 2. 蝶類調査

調査は原則として4~10月の第2、または第1金曜日に行います(表を参照)。雨天の場合は翌週の日曜日に順延、更に水曜日に順延します。

集合、観察時間：10時~12時30分頃、集合

場所：鷹取山公園山頂東屋。

### 3. 野鳥調査

調査は原則として1~5月と12月の第1金曜日に行います(表を参照)。雨天の場合は翌週の日曜日に順延、更に水曜日に順延します。集合場所、観察時間は蝶類調査と同じ。

### 4. 樹木板のメンテナンス

6月上旬に樹木プレートの架け替えを行います。

### 5. 巣箱の架け替え

11月上旬に使用した巣箱の掃除と巣箱の架け替えを行います。

植物相調査	蝶類調査	野鳥調査
1月22日		1月08日
2月26日		2月05日
3月25日		3月04日
4月22日	4月08日	4月01日
5月27日	5月13日	5月06日
6月24日	6月03日	
7月22日	7月01日	
8月26日	8月05日	
9月23日	9月02日	
10月28日	10月07日	
11月25日		
12月23日		12月02日

鷹取山自然観察会(ホームページを見て下さい)(Face bookも見て下さい)

HP:鷹取山自然観察会(旧 鷹取山の花と樹)

<http://takatoriyama.eco.coocan.jp/>

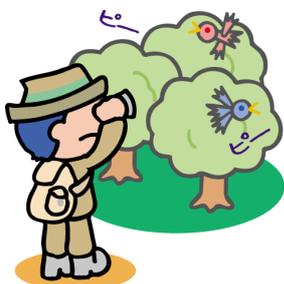
連絡先:世話人代表:本多久男 e-mail:takatori\_0721@nifty.com

# 平成28年 鷹取山自然観察会の予定

鷹取山自然観察会では次の日程（原則第二日曜日）で観察会を開催しています。季節によって鷹取山の様々な生き物の生活を観察していきたいと思います。会員以外の方も参加自由です。初めての方もお気軽にご参加ください。

- ◆ 集合場所：各駅の改札出口9時20分集合。観察会は12時まで。現地解散。  
追浜駅集合の場合は10時10分頃西友湘南鷹取店前（ここに集合可）を通過します。  
小雨程度は決行。大雨の場合は翌週の日曜日に延期します。（延期の場合は朝7時までにHPに掲載。）
- ◆ 参加費：100円（保険料・資料代）
- ◆ 定員：15人程度、先着順
- ◆ 申込方法：下記のアドレス宛てメール又は電話で申し込み下さい。
- ◆ 持ち物：メモ帳、鉛筆、飲み物、あれば虫眼鏡、双眼鏡など

日 程	観察会のテーマ	集合場所
1月10日（日）	冬を越す樹木を観察しよう	追浜駅
2月14日（日）	冬鳥の観察と冬芽を観察してみよう	京急田浦駅
3月13日（日）	早春の野草を探してみよう	追浜駅
4月10日（日）	春に咲く花を見つけよう	京急田浦駅
5月 8日（日）	オトシブミを見つけよう	追浜駅
6月12日（日）	イワタバコなど初夏に咲く花を観察しよう	神武寺駅
7月10日（日）	蝶とその食草を探してみよう	追浜駅
8月14日（日）	セミの観察と夏の花を観察し何でしょう	京急田浦駅
9月11日（日）	鷹取山の秋の七草は何でしょう	追浜駅
10月 9日（日）	野菊の違いを観察しよう	神武寺駅
11月13日（日）	コオロギなど鳴く虫を探してみよう	追浜駅
12月11日（日）	落ち葉の種類を見分けよう	追浜駅



<問い合わせ・申し込み先>

メールアドレス takatori\_0721@nifty.com

HP「鷹取山自然観察会」から申し込みできます。

電話：090(4177)0164 本多宛